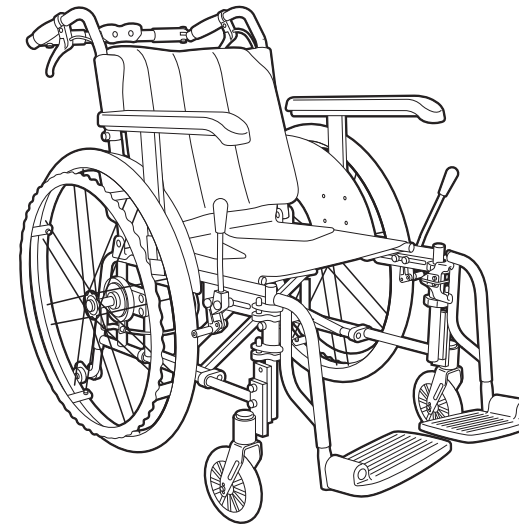
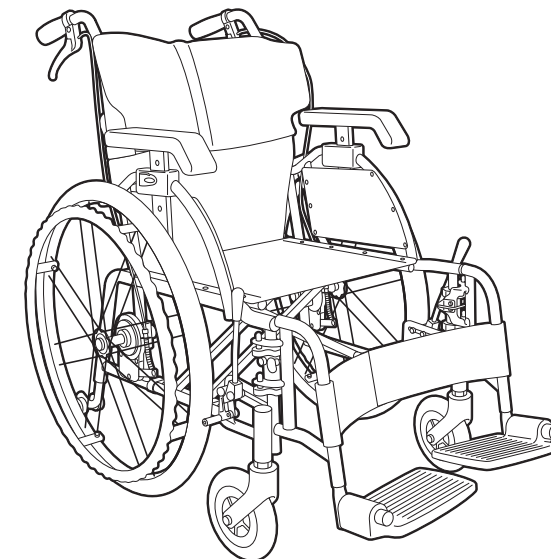


ライラック・スタンダード LILAC・STANDARD



ライラック・リベロ LILAC・LIBERO



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

取扱説明書

ご使用前には必ずお読みください。

目次

安全上のご注意・・・・・・・・・・2

1.各部の名称・・・・・・・・・・4

2.車いすの開きかた・・・・・・・・6

3.車いすのたたみかた・・・・・・7

4.乗り降りのしかた・・・・・・8

5.各機能の使いかた・・・・・・・・9
フットレストの回転・取り外し
(スイングアウト機能)・・・・・・・・9
転倒防止補助輪の調節・・・・・・・・10

6.各部の調節のしかた・・・・・・11
No.1 座面の高さを調節する・・・・・・11
No.2 座面の奥行きを調節する・・・・・・13
No.3 フットレストの高さを調節する・・14
No.4 バックレスト(背もたれ)の角度を
調節する・・・・・・・・・・・・・・14
No.5 背シートの張り具合を調節する・・15
No.6 後車輪の前後位置を調節する・・16
No.7 駐車ブレーキの取付位置を調節する・16
No.8 アームレストの高さを調節する・・17

7.保守・点検・・・・・・・・・・18

8.走行上の注意・・・・・・・・・・19

9.段の上がりかた・・・・・・・・・・19

保証書

- 保証期間はご購入後1ヶ年です。
- 保証期間中に「正常な使用状態」において「製造上の欠陥」による故障については無償修理をいたします。ただしキャスター車輪の磨耗やパンク、シートの破れ等は除きます。
- 次の場合は保証期間中でも有償修理といたします。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理改造による故障
(ロ) 天災地変などによる故障
(ハ) 保証書に販売店の押印のない場合
- 故障の場合は販売店へご連絡ください。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This guarantee is valid only within Japan.

■ 製造・卸販売

 株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

ご住所 〒 TEL	販売店
お名前	住 所
殿	店 名
お買上げ日 平成 年 月 日	TEL

印

安全上のご注意

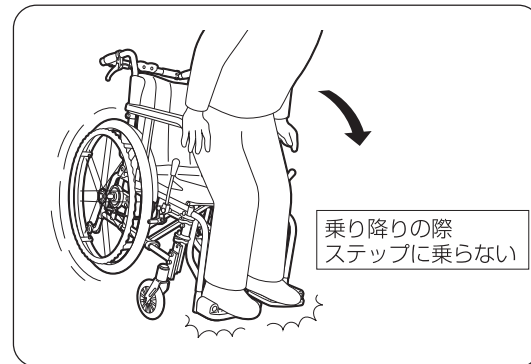
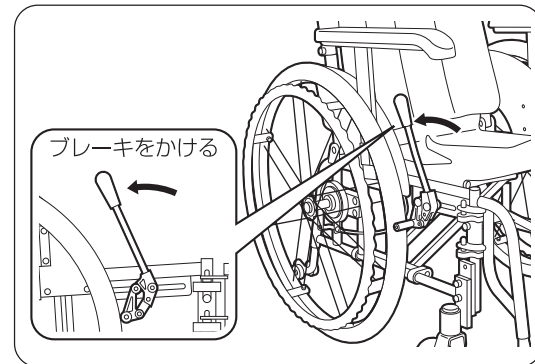
⚠ 危険 【死亡または重傷を招くもの】



- スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながるおそれがあります。
- ・ 下り坂で自走するときは、ハンドリムを使い、スピードを落として必ず前向きで降りてください。不安な場合は助けてもらってください。
- ・ 下り坂で介助をしてもらうときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。介助ブレーキがある場合は、ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。

⚠ 警告 【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪にブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと、車いすが動き出し危険です。少しの間の停止でも必ずブレーキをかけてください。
- 乗り降りの際にはステップに乗らないでください。
車いすが持ち上がって転倒し、事故やけがにつながるおそれがあります。



- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒して事故やけがにつながるおそれがあります。
- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒して事故やけがにつながるおそれがあります。
- 上げたステップに足が当たらないよう、注意してください。
けがをするおそれがあります。

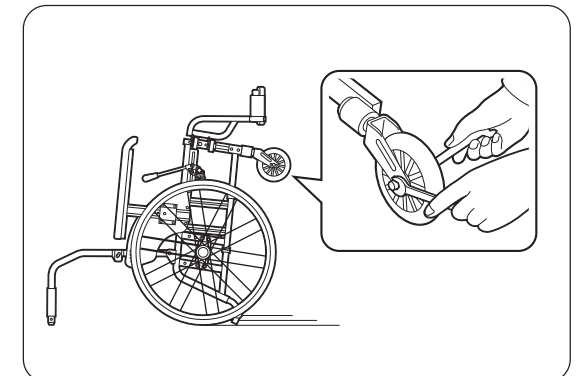
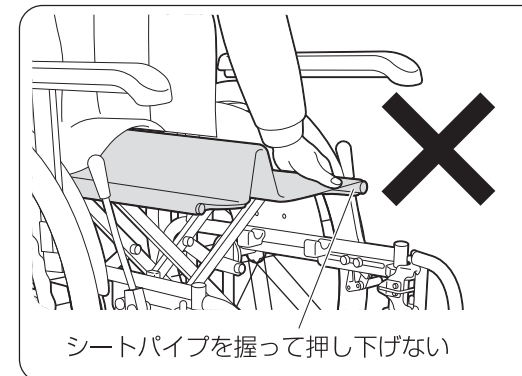
⚠ 注意 【軽傷または中程度の傷害を招くもの】



- 暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり、破損したりすることがあります。
破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。



- 車いすを開くときにシートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ、けがをするおそれがあります。

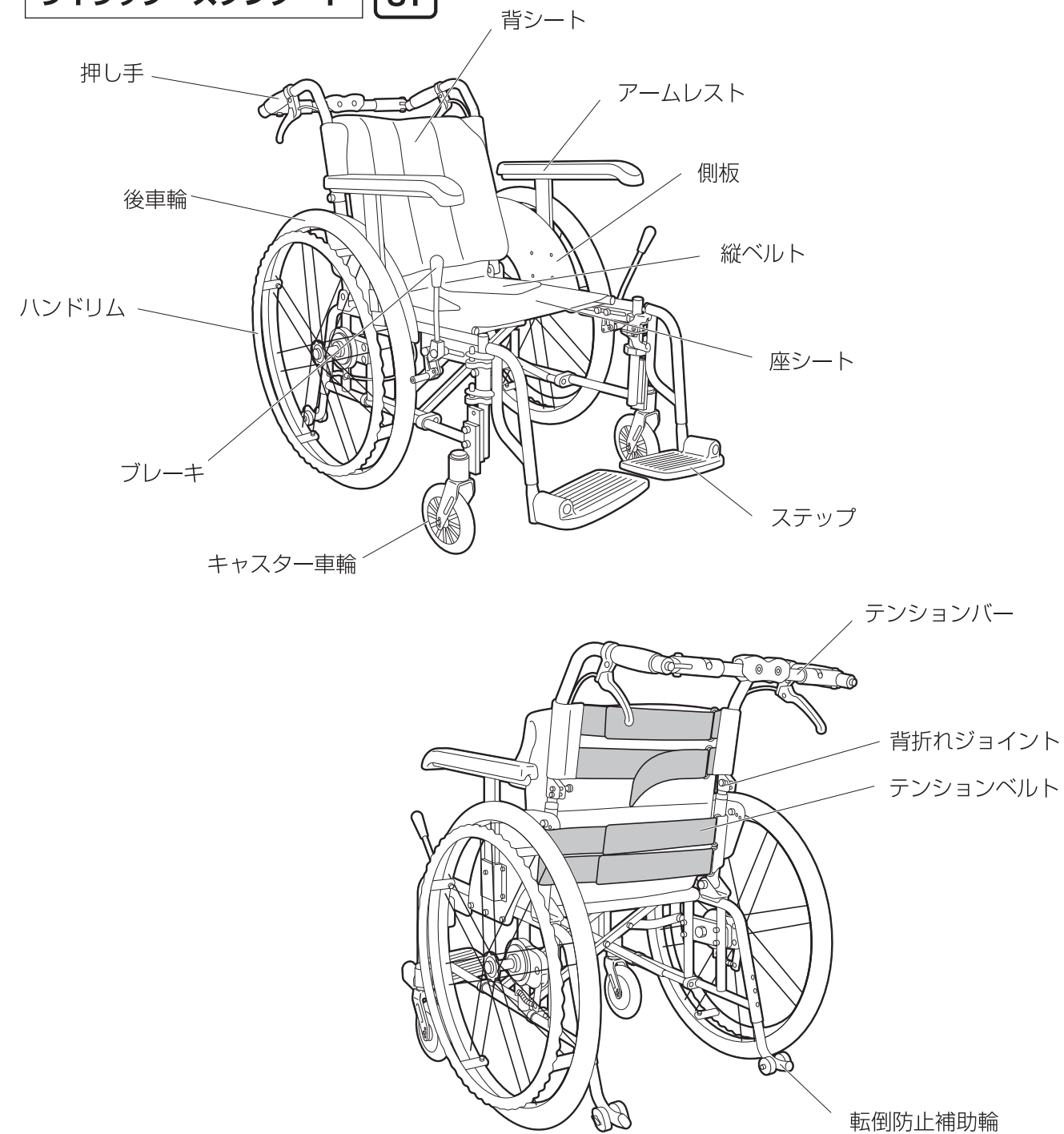


- 乗る前に後車輪・キャスター車輪・ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- 車いすをたたむときは、アームレストを握らないでください。
手を挟み危険です。
- 走行中、足がフットレストから落ちないようにしてください。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安定を損ない危険です。
- 調整式ステップは、地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- 介助をする場合は、搭乗者がハンドリムに触れないよう配慮してください。
指をはさみ、けがをするおそれがあります。

1.各部の名称

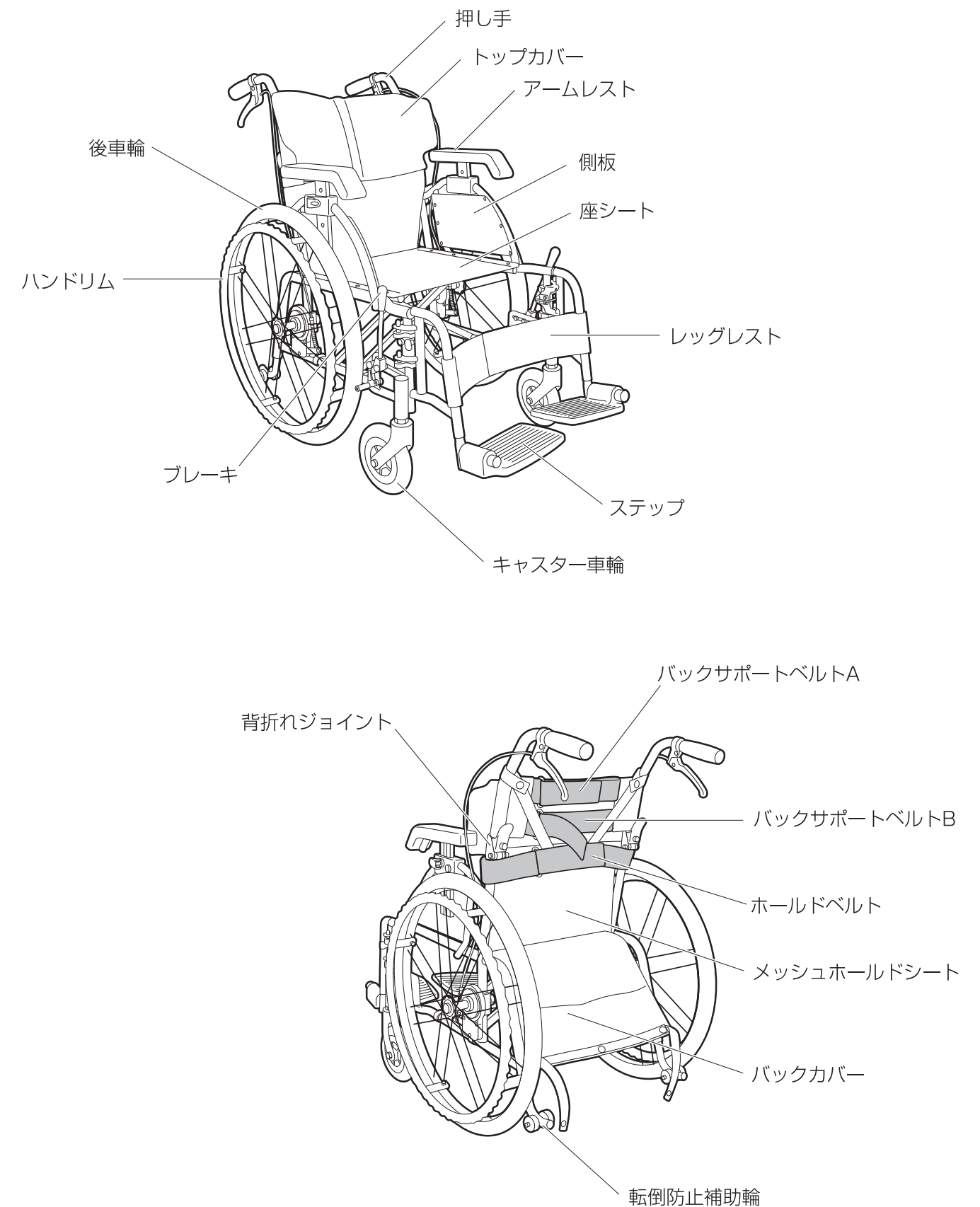
ライラック・スタンダード

ST



ライラック・リベロ

Libero



本取扱説明書について

ライラック・スタンダードとライラック・リベロには、それぞれ異なる機能や装備があります。本取扱説明書では、各機種専用の記載内容に以下のマークを付けています。なお、マークのない項目は両機種共通の内容です。

ST : ライラック・スタンダード専用の内容です。

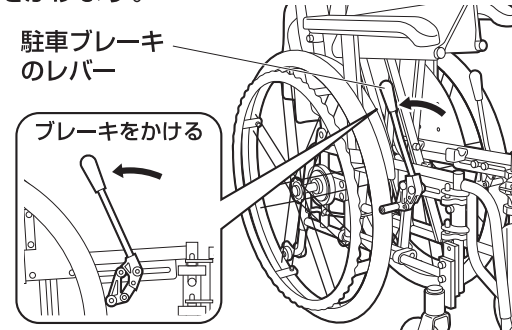
Libero : ライラック・リベロ専用の内容です。

*両機種共通の内容では、スタンダードの図を使って説明しています。

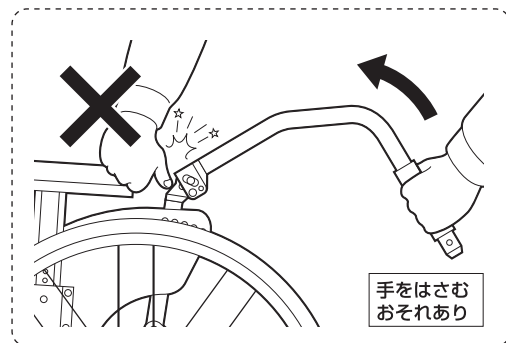
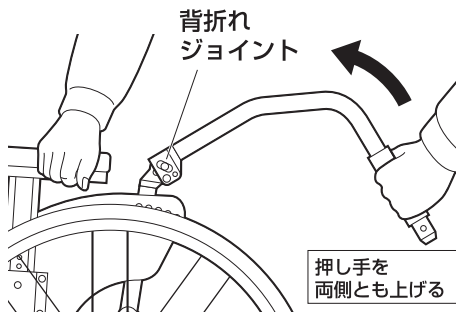
2.車いすの開きかた

⚠注意 シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。

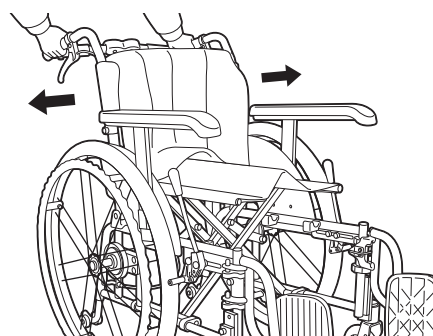
- 1 駐車ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



- 2 押し手を両側とも上げます。
* 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
* このとき、背折れジョイントに手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

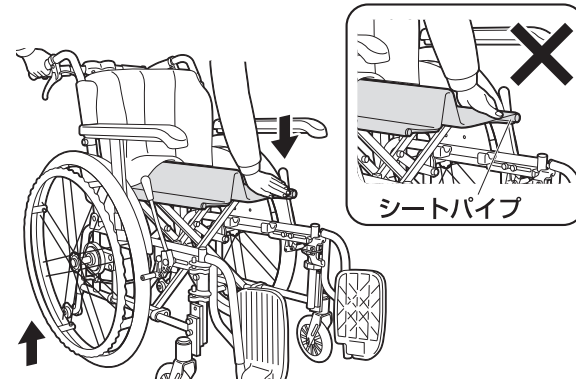


- 3 押し手を持って、軽く左右に開きます。

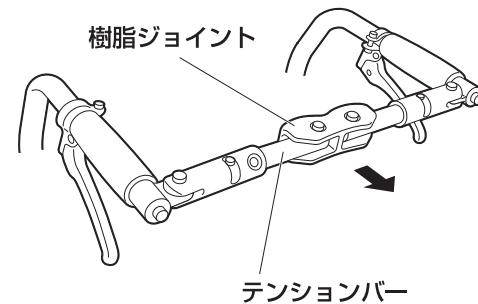


- 4 片側の車輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。

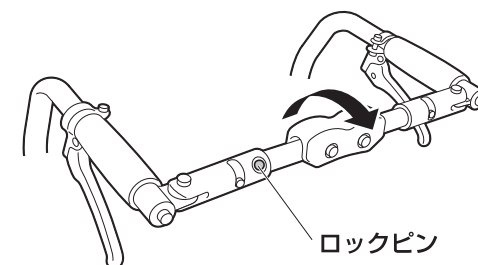
- 5 車輪を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
* シートパイプを握らないでください。



- 6 **スタンダード ST**
テンションバーの樹脂ジョイントを手前に軽く引き、テンションバーを真っ直ぐにします。
* 無理やり引っ張らないでください。テンションバー破損の原因となります。



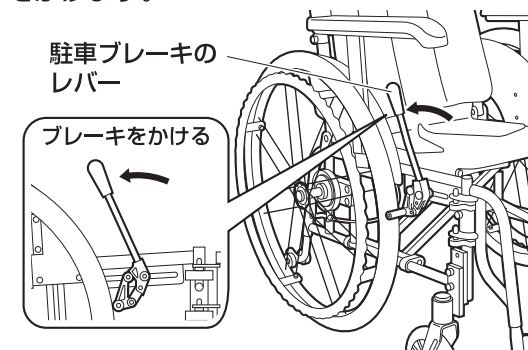
- 7 **スタンダード ST**
樹脂ジョイントを手前に90°回転させて、ロックピンが穴にはまりロックされたことを確認します。
* ロックピンが穴にはまっていないと、テンションバー破損の原因となります。



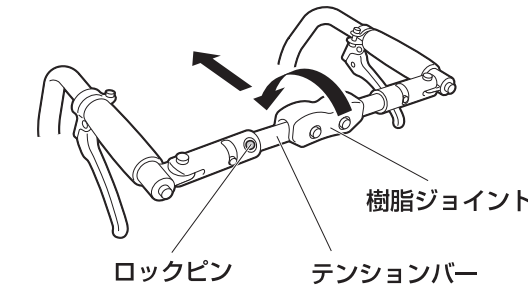
3.車いすのたたみかた

⚠注意 アームレストを握って車いすをたたまないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。

- 1 駐車ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

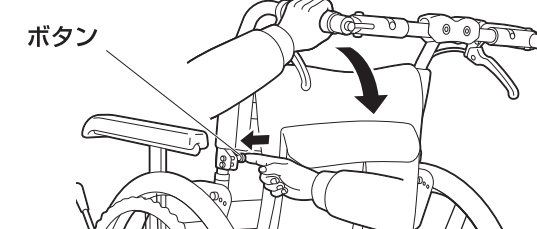


- 2 **スタンダード ST**
テンションバーのロックピンを押し込みながら、樹脂ジョイントを前方に90°回転させた後、テンションバーを前方に軽く曲げておきます。
* ロックピンを押さずに回そうとしたり、手前側に回そうとしないでください。テンションバー破損の原因となります。

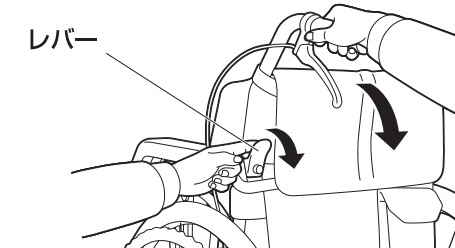


- 3 押し手を両側とも下げます。

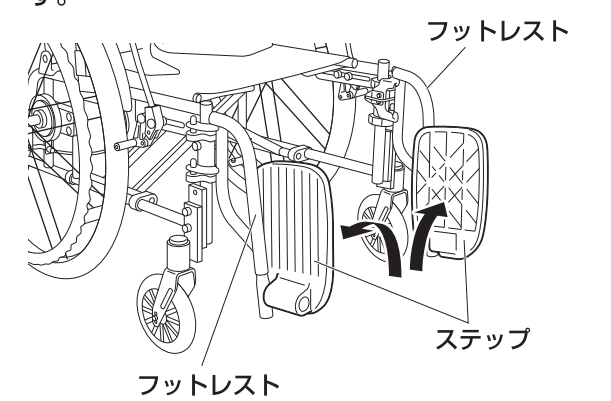
スタンダード ST
ボタンを押して、押し手を下げます。



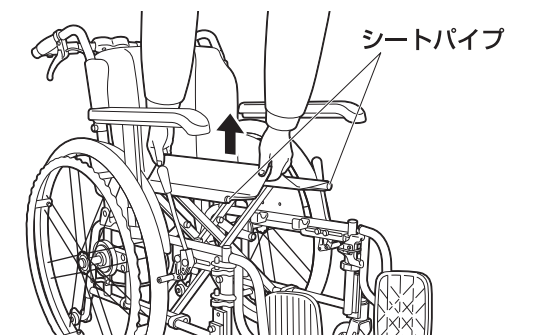
リベロ Libero
レバーを引いて、押し手を下げます。



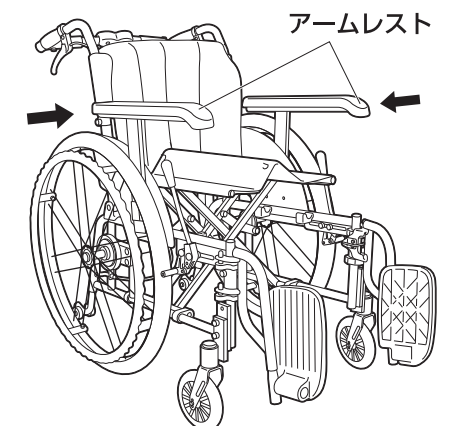
- 4 フットレストを外側に開き、ステップを上げます。



- 5 座シートの前後を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



- 6 アームレストを両側から押し、座シートを折りたたみます。



スタンダード ST
* テンションバーが自然に折れ曲がらない場合は、テンションバーを前方に押し折り曲げてください。
* 座シートを折りたたむ際、テンションバーの樹脂グリップに手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

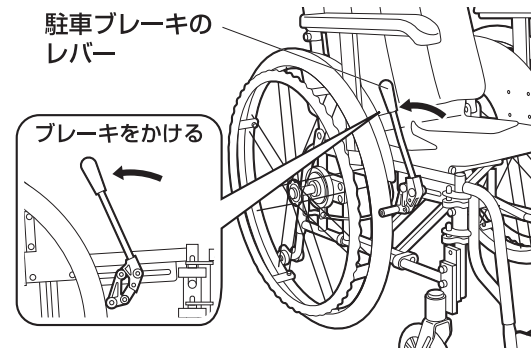
4. 乗り降りのしかた

⚠ 警告

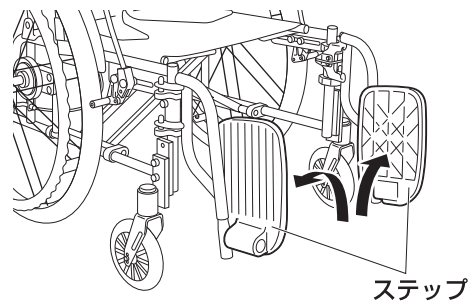
- ・乗り降り時は、必ず駐車ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、ステップの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたステップに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗るかた

- 1** 駐車ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

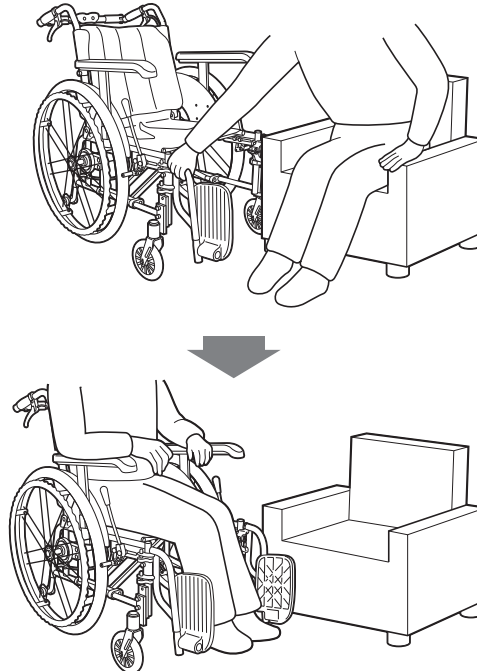


- 2** ステップを両側とも上げます。
 * ステップの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
 * 上げたステップに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。

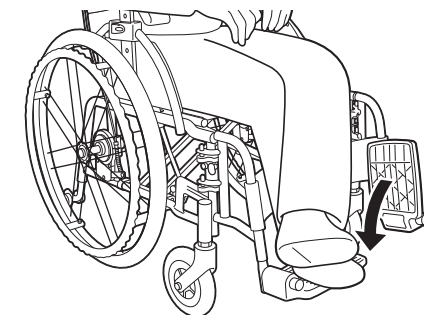


- 3** 乗り移る側のフットレストを外側に開きます。
 (9ページ「フットレストの回転・取り外し(スイングアウト機能)」参照)

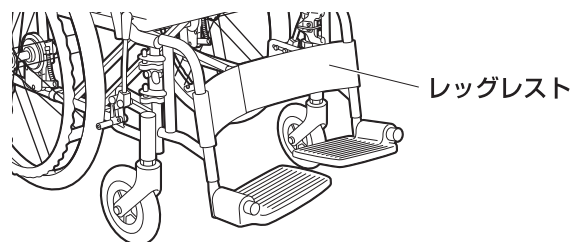
- 4** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



- 5** ステップを降ろして両足を乗せます。



- 6** レッグレストがある場合は、レッグレストのマジックテープを貼り合わせます。



● 降りかた

「乗るかた」と逆の要領で行なってください。

5. 各機能の使いかた

■ フットレストの回転・取り外し(スイングアウト機能)

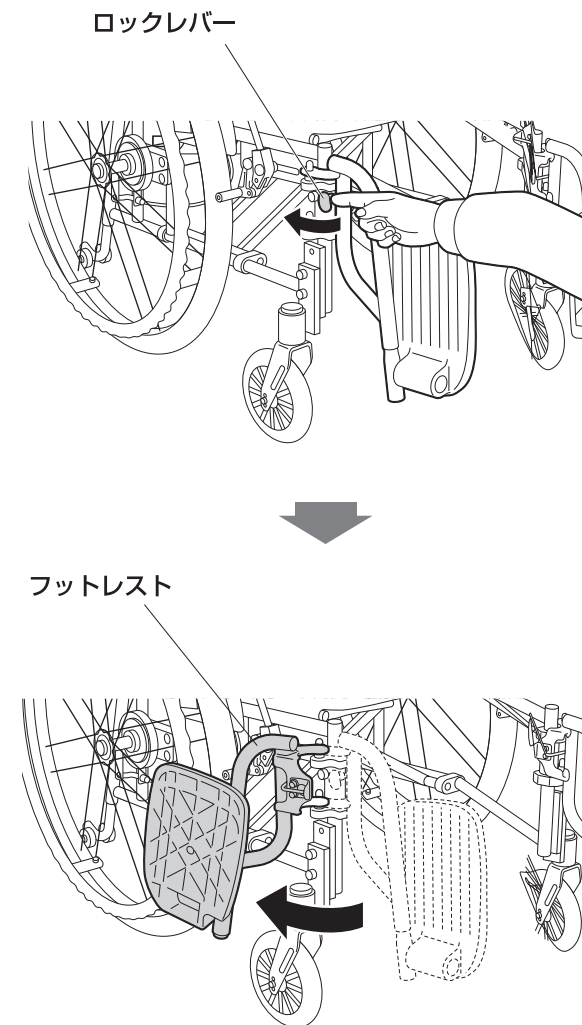
フットレストをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フットレストが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠ 警告

フットレストの回転・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車ブレーキをかけてから行なってください。

回転のしかた

ロックレバーを矢印の方向に押してロックを解除し、そのままフットレストを外側に回転させて開きます。

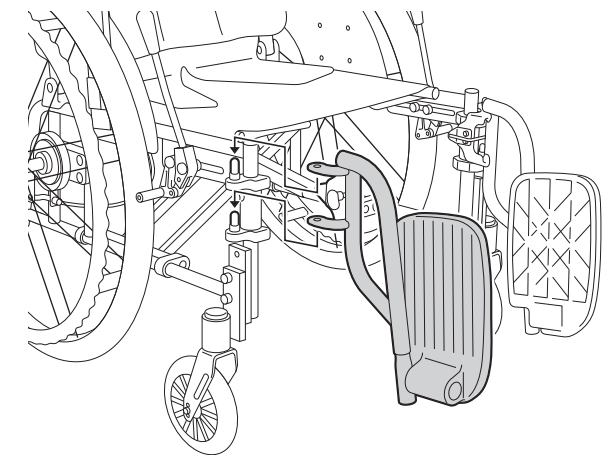


取り外しかた

フットレストを外側に開いた状態で、フットレストを垂直に引き上げます。

取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフットレスト側の穴を合わせてはめ込みます。



* フットレストを開いた状態で、フットレストに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

■ 転倒防止補助輪の調節

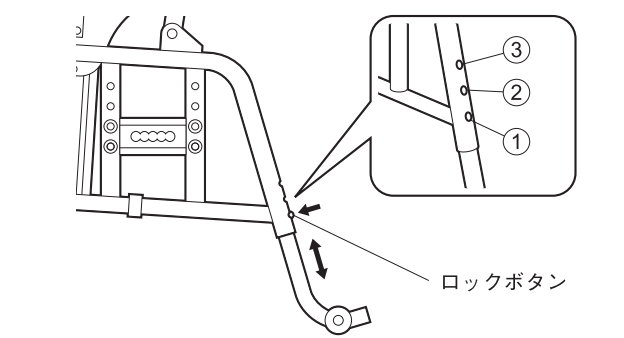
転倒防止補助輪の取付高さを調節することができます。

⚠警告 調節は、必ず両輪の駐車ブレーキをかけてから行なってください。

高さ調節のしかた

スタンダード **ST**

ロックボタンを押し込んでロックを解除し、転倒防止補助輪を上下に移動させて、調節したい高さの穴①～③でロックボタンをロックします。



- ・より下側の穴でロックすると、より確実に後方への転倒を防ぎます。段を上がる際は、キャスター車輪があまり上がらないのでご注意ください。
- ・より上側の穴でロックすると、車いすの動作範囲が広がりますが、後方転倒の危険度が増しますのでご注意ください。

転倒防止補助輪が不要の場合

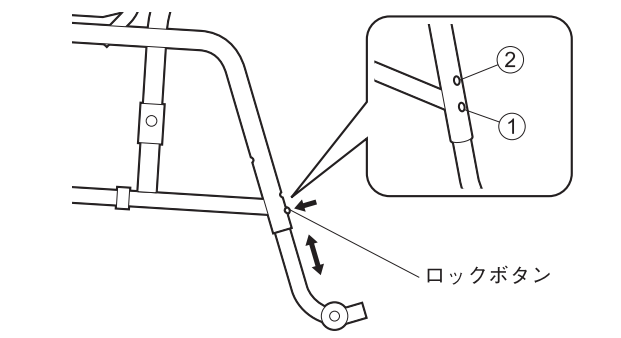
転倒防止補助輪を使用しないように調節することができますが、転倒防止機能がなくなりますので大変危険です。十分注意して使用してください。

スタンダード **ST**

ロックボタンを押し込んでロックを解除し、下から抜いて取り外します。
*取り付けは、取り外しと逆の要領で行ないます。

リベロ **Libero**

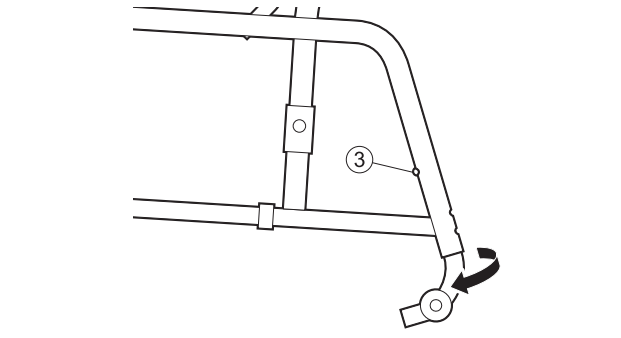
ロックボタンを押し込んでロックを解除し、転倒防止補助輪を上下に移動させて、調節したい高さの穴①または②でロックボタンをロックします。



- ・穴①でロックした場合
より確実に後方への転倒を防ぎます。段を上がる際に、キャスター車輪の上がる高さが55mmまでとなりますのでご注意ください。
- ・穴②でロックした場合
車いすの動作範囲が広がりますが、後方転倒の危険度が増します。段を上がる際に、キャスター車輪を100mmまで上げることができます。

リベロ **Libero**

ロックボタンを押し込んでロックを解除し、転倒防止補助輪を180°回転させて、穴③でロックボタンをロックします。



6.各部の調節のしかた

⚠警告 各部の調節は必ず駐車ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

車いすを初めて使用するときは、使用者に合わせて以下の順序で各部を調節してください。一度調節した後は、必要に応じて随時各部を調節してください。

スタンダード **ST** No.1→2→3→4→5→6→7→8の順に調節してください。

リベロ **Libero** No.3→5→8の順に調節してください。

No.1 座面の高さを調節する **スタンダード ST**

座面の高さ調節は、後座高と前座高をそれぞれ3段階に調節することで行ないます。後座高は車軸プレートの取り付け位置を変更することで、前座高はキャスターブラケットの取り付け位置を変更することで調節します。

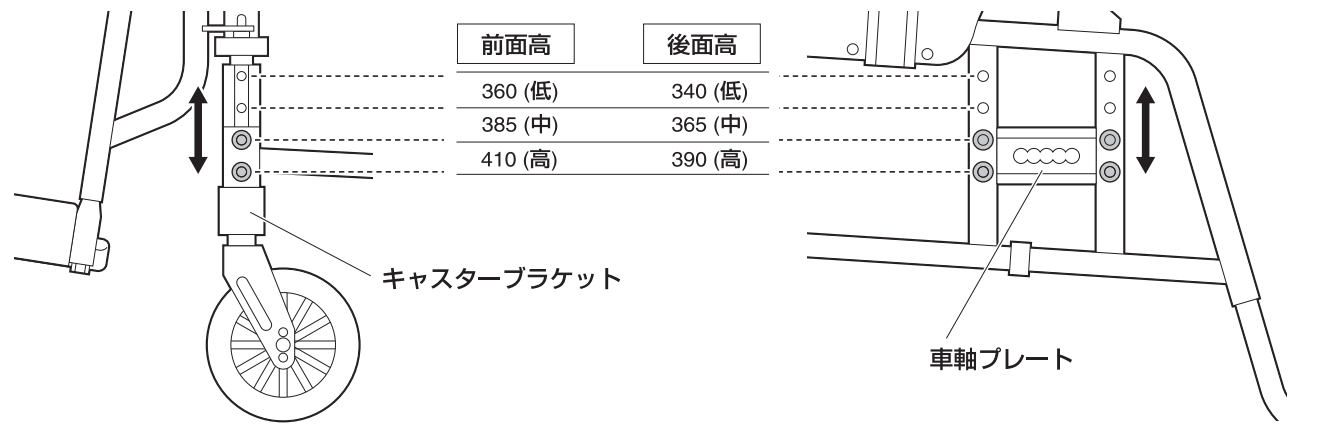
座面の高さは3段階に調節することができます。

後座高：390、365、340mm（クッションがある場合は450、425、400mm）
前座高：410、385、360mm（クッションがある場合は470、445、420mm）

- *後座高を変更したら、必ずそれに対応する高さに前座高も変更してください（下記表参照）。
- また、駐車ブレーキの取り付け位置も併せて調節してください。
- *前座高および後座高は、それぞれ左右同じに高さに調節してください。

後座高と前座高の調節範囲

(数値はクッションがない場合のものです。)

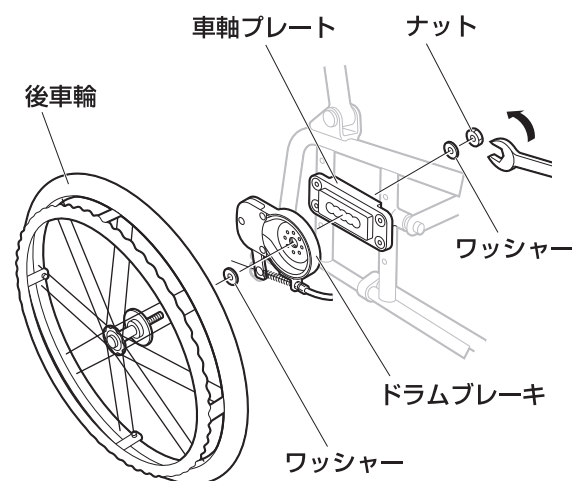


⚠危険 ・前座高と後座高は、必ず対応する高さに調節してください。
・前座高と後座高の調節を誤ると、腰掛けた場合に転倒する恐れがあります。
・使用者を乗せたまま調節を行なうのは、絶対におやめください。

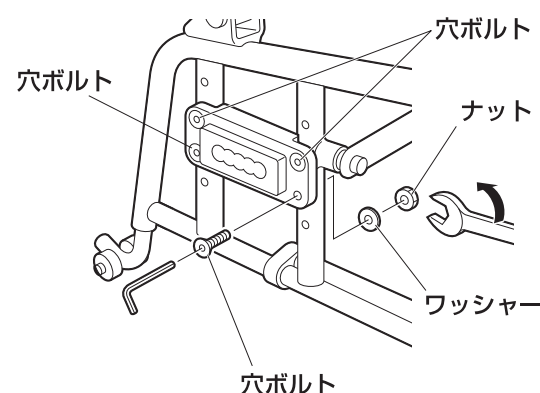
⚠注意 座面の高さ調節は販売店にご依頼ください。

後座高を変える

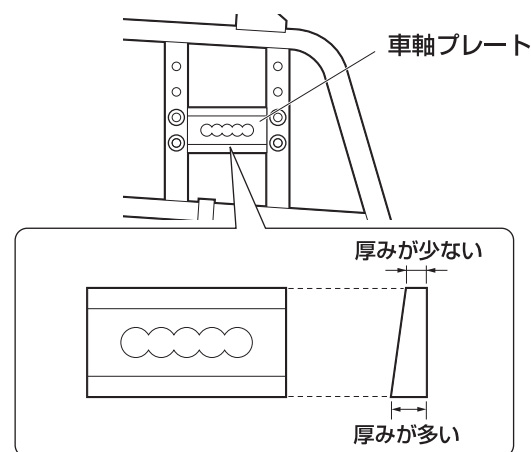
- 1 ブレーキを解除します。
- 2 車軸プレート内側のナットををスパナなどで回して外し、後車輪を引き抜きます。
*このとき、ドラムブレーキも共に取り外します。



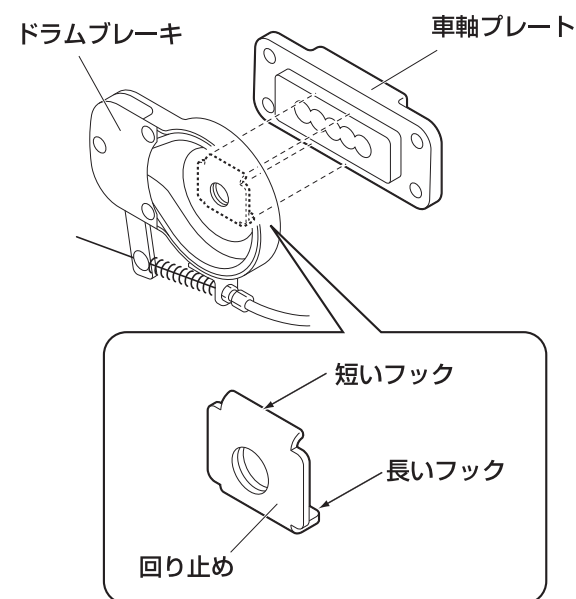
- 3 穴ボルト(4本)の頭をレンチで固定しながら、反対側のナット(4個)をスパナなどで回して外し、穴ボルト(4本)を取り外します。



- 4 車軸プレートの取付位置を決め、穴ボルト(4本)とナット(4個)で取り付けます。
*座高を下げたい場合は車軸プレートの位置を上げ、座高を上げたい場合は車軸プレートの位置を下げます。
*車軸プレートは、厚みが少ない側を上に向けて取り付けてください。



- 5 手順2と逆の要領で、後車輪を取り付けます。
*ドラムブレーキ内側の回り止めを車軸プレートにはめ込むとき、短い方のフックを上に向けてはめ込んでください。



- 6 後車輪ががたつかず、車軸プレートにしっかり固定されていることを確認します。さらに、後車輪が抜けにくいことを確認します。

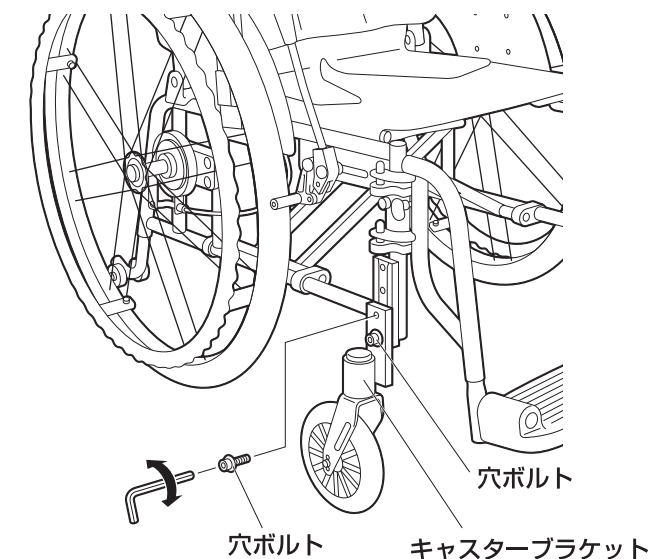
*反対側も同様に調節してください。
*次にブレーキの取付位置と前座高を調節してください。

前座高を変える

後座高を変更したときは、それに対応する高さに前座高を変更してください。

- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 穴ボルト(2本)をレンチで回して取り外し、キャストブラケットを取り外します。
- 3 11ページ「後座高と前座高の調節範囲」に従って、適切な高さになる位置で穴ボルト(2本)を差し込み、しっかりと締め込みます。

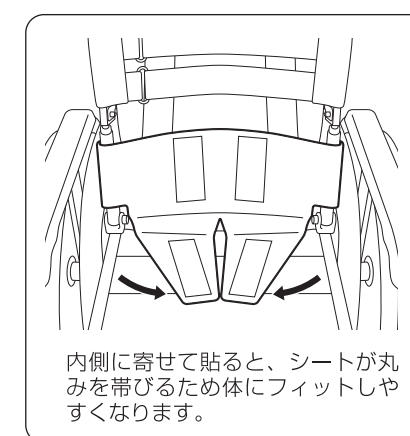
*反対側も同様に調節してください。



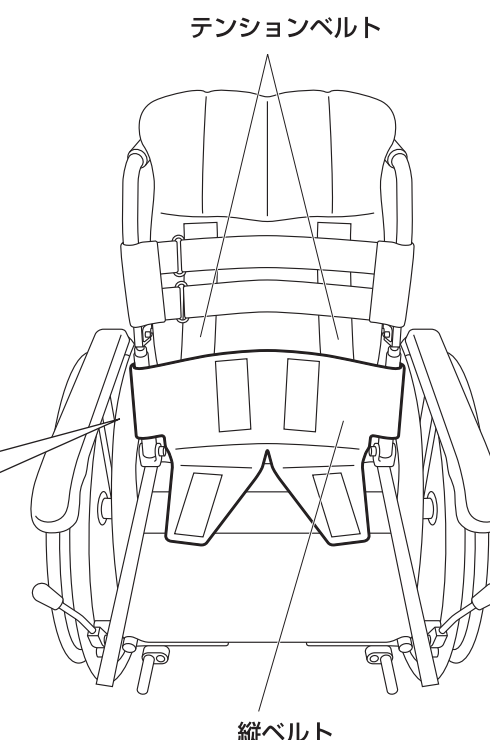
No.2 座面の奥行きを調節する

スタンダード ST

- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 図のように縦ベルトを張ります。
- 3 テンションベルトのマジックテープを貼り直して、できるだけ深く座れる位置に調節します。



内側に寄せて貼ると、シートが丸みを帯びるため体にフィットしやすくなります。

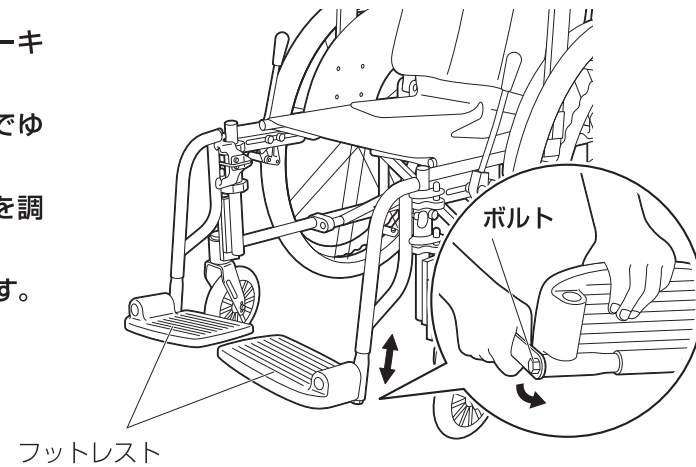


No.3 フットレストの高さを調節する

使用者に合わせて、フットレストの高さを適切な位置に調節してください。

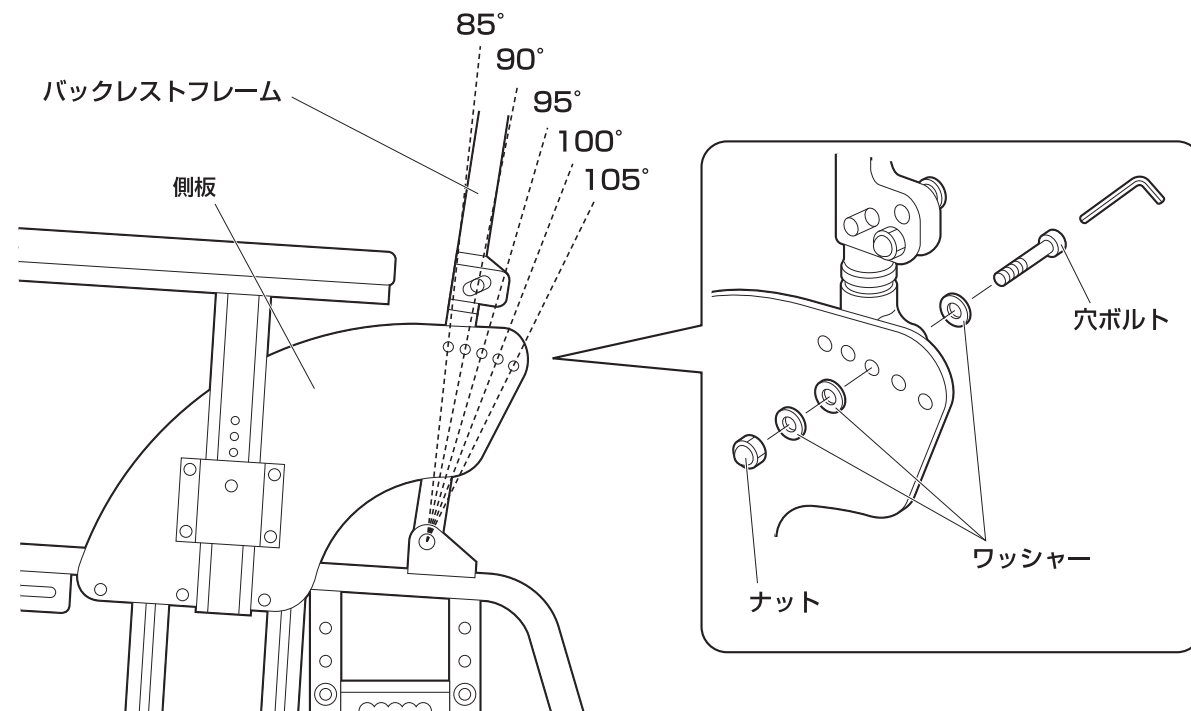
- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットレストの裏側のボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットレストの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、ボルトを締め付けて固定します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。



No.4 バックレスト(背もたれ)の角度を調節する スタンダード ST

側板にはバックレストフレーム取付穴が5箇所あります。この取付穴を変えることで、バックレスト（背もたれ）の角度を5段階(85度、90度、95度、100度、105度)に調節することができます。



- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 穴ボルトの頭をレンチで固定しながら、ナットをスパナなどで回して外し、穴ボルトを取り外します。
* 反対側の穴ボルトも同様に取り外します。
- 3 変更したいバックレストの角度に合わせて、側板のバックレストフレーム取付穴を決めます。
- 4 穴を決めたら、バックレストフレーム側から穴ボルトを差し込み、ナットをしっかりと締め付けて固定します。
* 反対側の穴ボルトも同様に取り付けます。

No.5 背シートの張り具合を調節する

車いすはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、背シートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

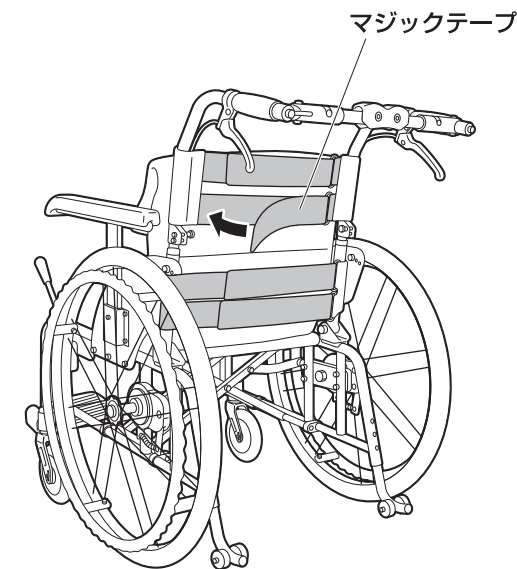
* 調節は使用者を乗せた状態で行なってください。

* 調節は必ずシーティングバーを取り付けた状態で行なってください。(スタンダード ST)

* 過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すことになりますので、十分注意して行なってください。

スタンダード ST

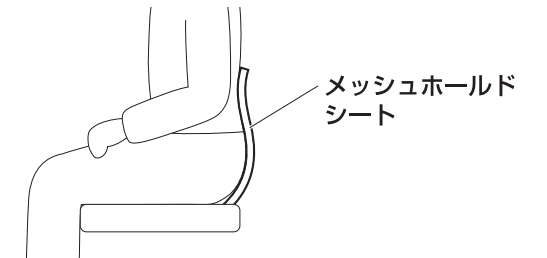
- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 各ベルトのマジックテープを貼り直してベルトの張り具合を調節します。



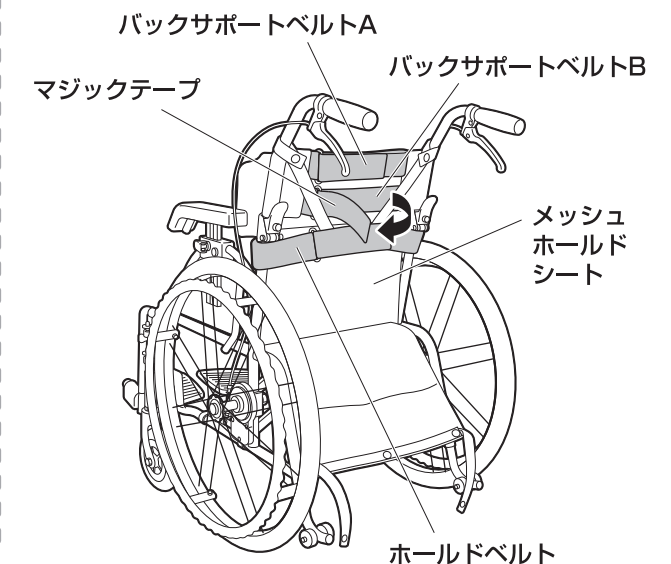
リベロ Libero

* 必ず最初にホールドベルトを調節してください。
* ご購入時は、マジックテープの赤い部分が隠れる位置に調節してあります。この位置を目安として調節してください。

- 1 駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 はじめに、お尻がメッシュホールドシートに当たるまで深く座ります。



- 3 ホールドベルトのマジックテープを貼り直してベルトの張り具合を調節します。
* ホールドベルトは、骨盤を支える目的の姿勢保持に重要なベルトです。このベルトがピンと張るぐらいに深く座ると、より安定性が確保できます。体が起こされる感じがしてきつい場合は、ベルトを多少ゆるめに張りなおしてください。またはお好みに合わせて調節してください。
- 4 背シートにゆっくりもたれます。
- 5 バックサポートベルトA、Bのマジックテープを貼り直してベルトの張り具合を調節します。



No.6 後車輪の前後位置を調節する スタンダード ST

後車輪の前後位置を変えることで、前後車輪間の距離を調節することができます。後車輪の前後位置は、後車輪の車軸の取付位置を変えることで調節します。車軸の取付位置は、10mm間隔で5段階に調節できます。

⚠危険

- ・使用者を乗せたまま調節を行なうのは、絶対におやめください。
- ・後車輪を前寄りに取り付けると、小回りがきくなど車いすの動きが軽快になり扱いやすくなります。その反面、重心が後ろに移動するため転倒しやすくなります。使用状況を十分に考慮した上で調節してください。

⚠注意

座面の高さおよび後車輪の前後位置調節は、販売店にご依頼ください。

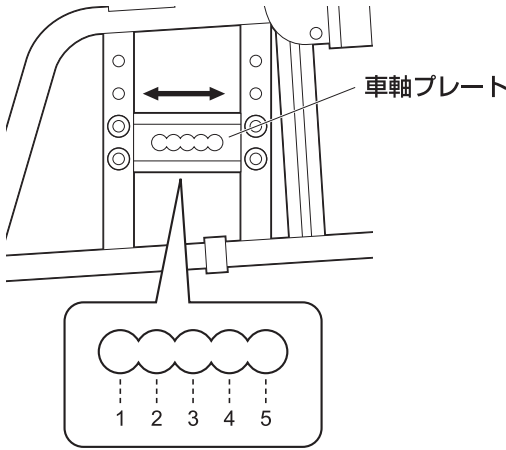
- 1

12ページ「後座高を変える」の手順2の要領で、後車輪を取り外します。
- 2

車軸プレートの5つ穴（図の1～5）から後車輪を取り付ける穴を決め、後車輪の車軸を差し込みます。
*後車輪の取り付けは、12ページ「後座高を変える」の手順5に従って行なってください。
- 3

後車輪ががたつかず、車軸プレートにしっかり固定されていることを確認します。さらに、後車輪が抜けないことを確認します。

*反対側も同じ位置に調節してください。



No.7 駐車ブレーキの取付位置を調節する

*座面の高さや後車輪の前後位置を調節したりしたときは、必ず駐車ブレーキの取付位置を調節してください。
（ スタンダード ST ）

*ブレーキの効き具合を随時点検し、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

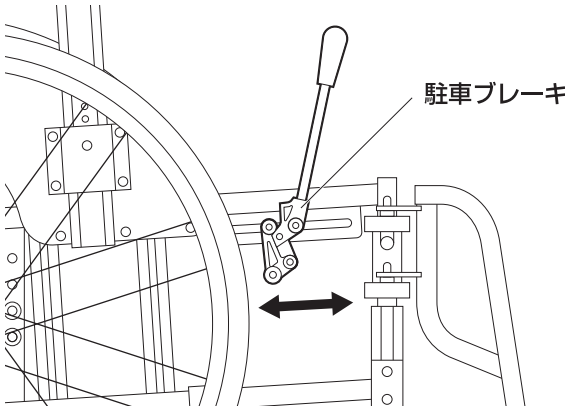
- 1

作業をしない側の駐車ブレーキだけをかけます。
- 2

駐車ブレーキの内側のナット（2本）をレンチなどで緩めます。
- 3

タイヤに駐車ブレーキのタイヤ押えが当たる位置に調節して、ナットを締めます。

*反対側も同様に調節してください。
*作業前に、タイヤの空気圧を適正に調節してください。



No.8 アームレストの高さを調節する

使用者の身長やお使いのクッションに合わせて、アームレストの高さを調節してください。

⚠注意

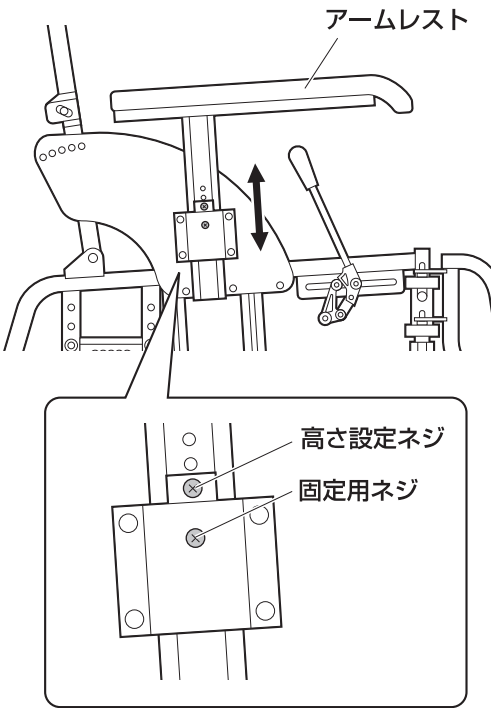
- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調節中にアームレストが下がり、アームレストフレームとアームレストパッドの間に指をはさまないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- ・アームレストを持って車いすを持ち上げないでください。

スタンダード ST

- 1

駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2

固定用ネジをゆるめ、高さ設定ネジを取り外します。



- 3

アームレストの高さを調節します。
*高さは205mm～280mmの間で7段階に調節できます。
- 4

高さ設定ネジを取り付けてしっかりと締めます。
- 5

固定用ネジをしっかりと締めます。

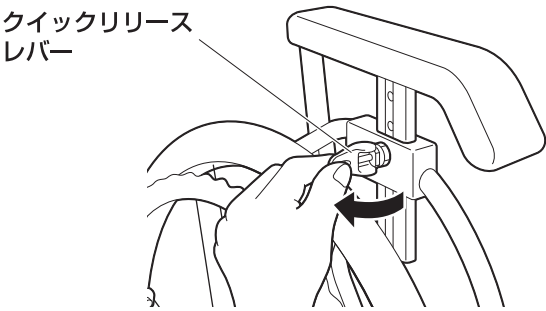
*反対側も同じ高さに調節してください。
*調節後、アームレストがしっかり固定されていることを確認してください。

リベロ Libero

- 1

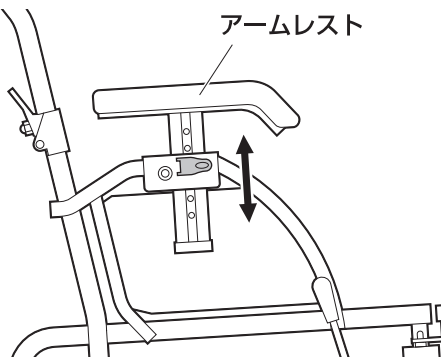
駐車ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2

アームレスト外側のクイックリリースレバーを引いてロックを解除します。



- 3

アームレストの高さを調節します。
*高さは230mm～330mmの間で6段階に調節できます。



- 4

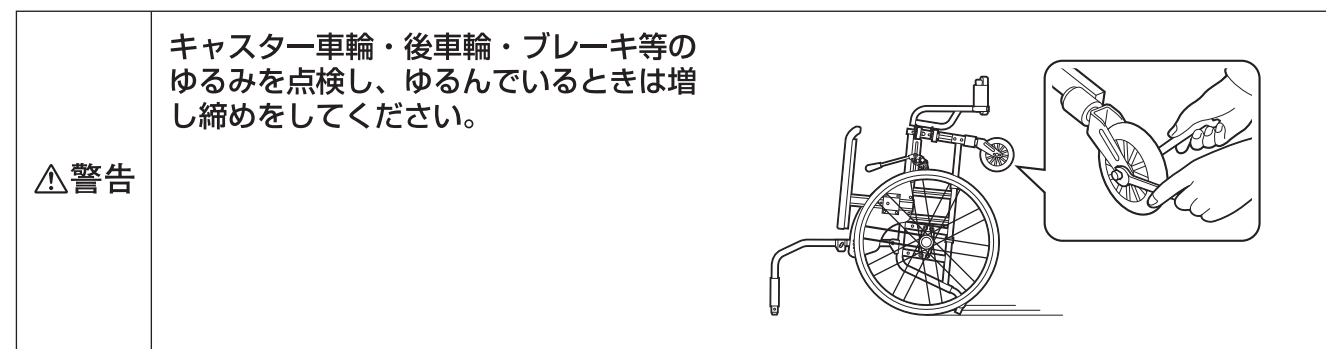
調節を終えたら、レバーを元に戻してロックさせ、アームレストパッドを固定します。

*反対側も同じ高さに調節してください。
*調節後、アームレストがしっかり固定されていることを確認してください。

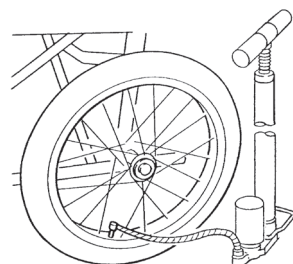
7.保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。



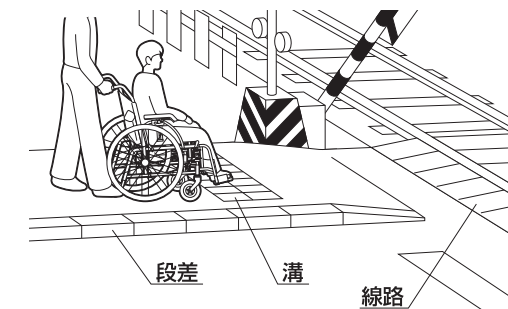
- ・車いすは湿気に弱いので、水のかかる場所に放置しないでください。
- ・ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へ調整の依頼をしてください。
- ・タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。



- ・パンクの場合は、販売店または最寄りの自転車店にお尋ねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

8.走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャスター車輪の挟み込みには充分注意してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

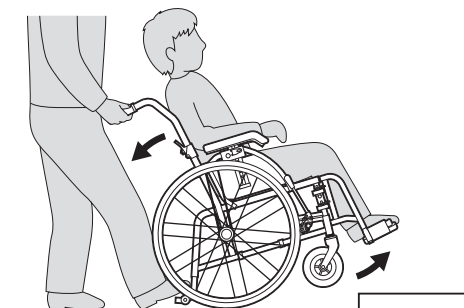


* 図はリベロです。

9.段の上がりかた

* 転倒防止補助輪の取付位置によってキャスター車輪の上がる高さが異なります。必要に応じて、転倒防止補助輪の取付位置を調節してください。(10ページ「転倒防止補助輪の調節」参照)

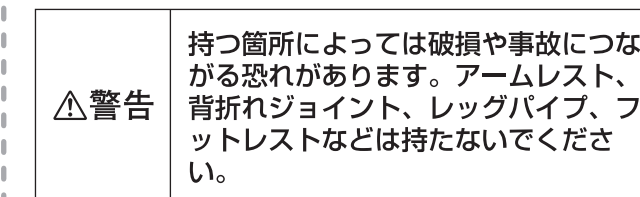
- 1 押し手を手前に引くようにして、キャスター車輪を段の上にあげます。



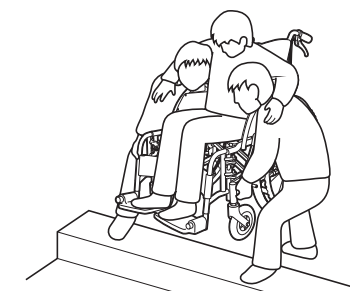
* 図はリベロです。

- 2 後車輪を段に突き当て、車いすを押しながら押し手を持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合



車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。



* 図はリベロです。